

KSKP

たびだち つうしん

出

発

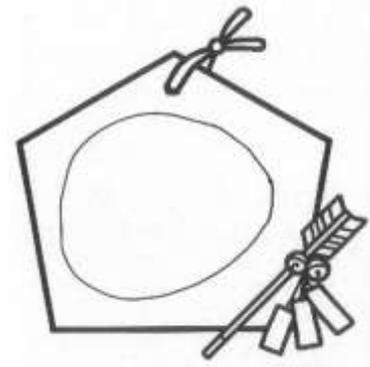
通

信

NPO法人 出発のなかまの会

186号

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行



もくじ 目次

あら とし い	新たな年をともに生きる	2
たい し こうしょう はつげん	「うちのバスがなくなる?」~対市交渉で発言しました~	4
すてき であ	素敵な出会い	6
らくたいきょけん さんか	ゆ~楽太極拳に参加しました!	7
たかとりやま	高取山キャンプ	8
ついでう まつめいしゃちやうほんとう	追悼 松野社長 本当にありがとうございました	9
どうむ	童夢KANSAIに行きました!	11
かつどう	活動のあと	12

あら とし い 新たな年をともに生きる

ゴッホの絵を観るために久しぶりに神戸に行きました。南京町で昼食をとり、神戸市立博物館のある大丸方面へ歩いていると、ふとKOBELミナリエの看板が目に入りました。ルミナリエの写真を目にするとはり少しタイムスリップするような瞬間がありました。元旦の朝が来るたびに、能登地震のことを思い出さずにはられません。石川県はホームページで能登地震や豪雨災害の写真などを一般の人から集めていて、ホームページで画像や動画、3Dモデルなど多彩な情報を公開しています。30年前にはなかった情報共有の形だと感じました。

さて、財務省が昨年11月に財政制度等審議会で発表した資料によると、障害福祉サービスの財源は年々増加の一途をたどっています。この10年間でおよそ2倍になったそうです。原因は障害者の人数が2倍に増えたからではなく、ひとりあたりのサービス利用額が高くなっているようです。そして、サービスの利用が多くなるのは、利用者負担が少ないことが後押ししていると考えられています。現在の障害福祉サービスは、利用者本人の収入が少ない場合には、ほとんど負担がありません。とても利用しやすい制度になっています。しかし、そのために利用が増えて障害福祉にかかる財源が拡大しているというのです。しかも、障害福祉サービスに多くの営利法人が新規参入するようになってから、「儲ける」福祉への関心が高まりました。その結果、福祉経験のない異業種からの参入が増えて、事業所数が一気に増えました。そこで、供給過多になっているグループホームに対して自治体の判断で指定の総量に規制をかけることが検討されています。総量を規制すると、質の良い事業者の参入も阻まれることになります。事業所数が増えること自体は悪いことではありません。問題なのは事業所の数ではなく、サービスの質の低下です。新規参入した事業所のなかには、福祉や介護、障害についての知識や支援経験が十分でないにもかかわらず事業を開始し、どうやって支援すればよいのか困っているところもあるようです。実際のところ、障害者の支援は、「こうやれば必ずうまく」いくなどということは一切なく、たくさん失敗と成功を積み重ね、障害当事者も支援者もともに四苦八苦、一喜一憂しながら日々を過ごしているのです。

繰り返しますが、問題なのは事業所の数ではなく、サービスの質の低下です。グループホームでは、地域連携推進会議が今年度から義務化されました。「質の向上のため」にするのですが、年1回会議をしたくらいではサービスの質は上がりません。サービスの質を向上させるためにはやはり研修が欠かせません。近年は国により義務化された研修が増えており、その対応にも大変な労力が必要です。職員に資格要件がないグループホームでは特に入職時にしっかりと研修を受けられる体制を作っていくこ

とが重要です。グループホームは概ね 4,5人の利用者に対して、支援者が1人から多くても 3人程度と少ない人数で対応します。入職してすぐに独り立ちして業務にあたるのが求められるため、しっかりと研修で業務内容を伝える必要があります。また、継続的な研修や先輩職員と一緒に働く時間を確保するなど、何層にも学ぶ機会が確保されることが望ましいと思います。

人材の確保すら厳しい状況ですが、人材育成にかかる費用もしっかりと確保されなければ、支援の質の維持、向上は難しいでしょう。厚労省はグループホームの世話人や支援員に資格要件を設けることも検討したようですが、そうすれば新たな職員の確保はますます困難になり、人員不足による事業縮小や閉所が増えると思われます。

介護人材が極めて不足するなか、どのように人材を確保し、育成していくのか、最早絶望的ともいえる難題に我々は直面しているのです。物価上昇により、建物や消耗品などの運営コストも上がっています。賃金上昇は良いことだととらえていますが、それを支えるのは介護報酬です。一刻も早く現在の

物価、賃金水準に合わせた改定がなされるべきです。そして福祉人材の確保と育成に力を注ぐことができますように…。

2025年度には当会設立以来の理事が退任され、新たな理事を迎えました。新しいエネルギーが注入されることで、少しずつ前進できるように力を合わせて参りたいと思います。ウまい話には乗らず、着実に歩みを進めます。

2026年が明るい話題にあふれ、皆さまが安心して暮らせますように祈ります。

(石井香里)



「うちのバスがなくなる?」~対市交渉で発言しました~



12月に二日かけて行われる大阪市との話し合い(対市交渉)についての
 障害者の自立と完全参加を目指す大阪連絡会議(障大連)が作成した資料に
 「大阪シティーバスに替わり、オンデマンドバスが増加する危険性とその保障につ
 いて」という文章が載っていることが 11月18日のどんだん会議にて報告されま
 した。

11月に入り、対市交渉でどんだんのメンバーとしてどんな発言をするかを考え始めていた時でした。
 彼らはこれまでこういった場で、自分たちが地域での暮らしを続けたい思いを語り、そのためにも自分
 たちの暮らしを支えてくれているヘルパーやグループホームについての希望を大阪市に訴えてきました。
 「ヘルパーさんと外出をしたい。もっとヘルパーさんを!」「これからも一人暮らしもしたいし、グループホ
 ームにも助けてほしい」等々。

「バスがなくなるのは困る!!絶対に大阪市に言いに行く!!」と気炎を上げたのは北山さん。そして、北
 山さんの気迫に答えて一緒に行くことになったのが田中さんでした。

北山さんと田中さんの出番は、1日目の 14時20分からの交通・まちづくりの時間です。14時には到
 着し、大阪市の役人たちが並ぶ対面の席の前から2列目に席を確保しました。

20年ぶりに行われた大阪市の交通バリアフリー構想の議論で取り残された課題の話のあと、いよ
 いよ発言の番が回ってきました。マイクを受け取り、立ち上がる北山さん。準備した台本を見ながら「ど
 んどんの北山すうわです。バスに乗って天王寺とかにでかけます。オンデマンドバスでは分かりません。
 ややこしいです。シティーバスをなくさないでください。みんな困ります。」とはっきり言いました。続いて、
 田中さんが、どんだんの田中であること、オンデマンドバスは知らないこと、今日もここまで交通パスを
 見せて路線バスで来たこと、路線バスがなくなったら困ることを伝えました。

大阪市の回答は「路線バスの運行は維持します」でした。

え? 私たちの早とちりだったの?

とは言っても、昨年まで生野区、平野区、北区、福島区の 4区でしか走っていなかったオンデマンドバ
 スが今年になって鶴見区や住吉区等が増え 16区で走るようになりました。また、大阪市交通局が
 2018年に民営化された際、バス事業は「路線、運行回数、運賃は原則として少なくとも譲渡後10年は
 事業引継ぎ時の水準を維持する」とされていたのです。つまりオンデマンドバスの導入の急激な増加は、

やく ねんご ねん ど いこう さいさん ろせん はいせん すす じゅんび うたが
 約1年後の2027年度以降に採算のとれない路線バスの廃線を進めるための準備じゃないの?と疑っ
 てもしかたがないと思えるのです。

ひ つづ くるま かた しかくしょうがいしゃ かた つか つか
 引き続いて、車いすユーザーの方や視覚障害者の方がオンデマンドバスはとっても使いにくい、使えな
 いことを発言されました。視覚障害をもつ方にとってはバス停がどこにあるかとても分かりにくいこと。
 くるま たいおう しゃりょう だいすう かぎ くるま じょうこう さい りふと たいおう てい すく
 車いす対応の車両の台数が限られていること。車いすが乗降する際のリフトに対応できるバス停が少
 ないこと。更に車両に重量制限があり電動車いすの多くが乗れないこと等々。そして、大阪市が発行し
 ている交通パスが使えないこと。これらの理由でスマホでの予約が取れなかったり、乗りたい時間の5
 じかんご よやく と あきら じれい あ
 時間後にしか予約が取れず諦めた事例を上げていました。

これらの発言に対し、大阪市は、オンデマンドバスは社会実験であり、これから改善していくものであ
 り、皆様のご要望を聞いて改善していきますとの返答でした。

いやいやいやいや。それなら、オンデマンドバスをスタートさせようとする計画段階から障害当事者の
 はなし き おも え おおさかし じんこうげんしょう こうれいか しんてん こんご ちいきこうつう
 話を聞けよと思わざるを得ません。大阪市は「人口減少や高齢化の進展などにより今後の地域交通を
 めぐる環境の変化が見込まれることから、新たな技術を活用した移動手段」として、オンデマンドバスを
 どうにゅう い
 導入したと言います。

その今後の地域には障害者はいないのでしょうか?

今後の地域交通を利用する障害者はいないのでしょうか?

おおさか まち だれ く まち かぶぬし はいとうきん
 大阪の街を、より誰もが暮らしよい街にすることよりも、株主に配当金をどれ
 だけより多く回せるかが優先課題になるのであろう民営の大阪シティーバスの
 じょうそうぶ あら ぎじゅつ どうにゅう みらいしゃかい すこ
 上層部にとって、新たな技術を導入した未来社会においては、少しばかりの
 しょうがいしゃわく はいりょ つく おも おも
 障害者枠を配慮して作っておけばいいと思っているのかもと思えてしまいます。

「アクセスの悪さは同じだが、車いすの人たちが東京よりも自由に外出して
 いると感じる。」とおっしゃっていたのは 11月の映画会で大阪にお招きした
 さとうひろみ
 佐藤裕美さんです。

おおさか しょうがいしゃだんたい せんばい かいたく げんえき かたがた いま い じ はってん おおさか
 大阪の障害者団体の先輩たちが開拓し、現役の方々が今も維持、発展させようとしている大阪のバ
 リアフリー。それらをより進化させる運動に、多くの市民に参戦してもらわないといけないと思うのはお
 げさでしょうか?

こんご おおさかし ろせん どうこう ちゅうし
 今後とも大阪市の路線バスやオンデマンドバスの動向を注視しないとイケません。



ひらやましゅうへい
 (平山周平)

すてき であ 素敵な出会い

もし私だったらどうするだろう。“何となく”生きている私は 2時間の映画の中で何度も感情が揺すぶられた。今もまだ考えはまとまらない。ただ、色々なものを失う恐怖や怒り、迷いを抱えながら、また歩きだす姿にとても大きな力をもらい、私も「生きる」ということを一緒に考えていきたいと強く感じた。

難病ALS当事者のドキュメンタリー映画「杳かなる」を是非たくさんの人と共有したいと思って自主上映会を開催することにした。出演者の佐藤さんと宍戸監督にトークイベントのオファーをすると是非にお返事があり、だったら大阪の当事者も一緒に!でも私たちだけでは心許ないので“ちゅうぶさん”と“自立生活センター・おおさかひがしさん”に共催をお願いした。

何度かのオンラインミーティングを経て、トークイベントでは趣味の話をしよと決まった。当日、控室で改めて自己紹介をしあい、ウキウキとした感じで壇上へ。話を聞いていると何とみんな東京に共通点がある。東京に住んでいる佐藤さん、岩手と東京を行き来して仕事をしている宍戸監督。当会の代表で登壇した沼田さんは 2年に 1回は東京に行き、隅田川を眺めたり鉄道模型を買うのを楽しみにしている。今度は東京で再会かも、とまさかの展開だった。自分の好きな事を話すのはとても楽しい時間だった。

新しい出会いに感謝しつつ、2026年2月23日(月・祝)に「ラジオ下神白」の上映会&トークイベントも決まっている。福島県の復興住宅での支援活動を描いたドキュメンタリー映画でトークイベントには以前当会が歓待を受けた羽咋市のつながりさんから知的障害の仲間たちが来て、出演者のアサダさんや小森監督と登壇予定。能登半島地震の「のとからの風展(写真展)」も同時開催します。是非、会場でお会いしましょう。

(菅田裕加)



2026年2月23日(月) 東成区民センター小ホール

「ラジオ下神白」上映会&トークショー

/同時開催 のとからの風展(写真展)

14:30 開場

15:00 上映会① (上映時間 70分)

16:30 トークショー

小森はるか(映画監督)、アサダワタル(出演・企画)

一般社団法人つながり(石川県羽咋市) メンバー、支援者の方々

17:45 上映会② (上映時間 70分)



ゆ〜らく太極拳に参加しました!

出発のなかまの会では毎週月曜日に、はたらく・つながる「とどりの木」で太極拳を楽しんでいます。今年も西成区民センターで演武イベントが開催され、『TEAM たびだち』として参加することになりました。毎年メンバーさんも楽しみにしているイベントです。日頃の練習の成果を発揮するぞー!

今年はお出番が後半の部になり、先に昼食を取るようになりました。店に着くとみなさん唐揚げ定食やミックスフライ定食などをしっかりと食べて大会に向けてパワーを付けました👍

会場に到着して着替えも済ませて、受付に行くと、運営の方からのプレゼントでメンバーさんが事前に描いた絵をラミネートしてオリジナルパンフレットを作ってくれていました! 素敵なサプライズにメンバーさん達も嬉しそうに手に取り、記念に集合写真を撮りました。こういった周囲との交流や繋がりを感じるのもイベントの良さだと改めて感じました。



そしていよいよ午後部の部になり TEAM たびだちの出番が来ました。一列に並ぶと「今から太極拳を始めます。開始!」と山下さんがしっかりと挨拶をして始まりました。

前半の『バラが咲いた』ではみんなで輪になりカラフルな布を持つと、優しいメロディに乗せてゆっくりと上下させます。みんなの気持ちが一気化すると雰囲気伝わり、池田さんはニコニコと微笑み田中さんも楽しく歌を口ずさみ、山本さんは流れに合わせてバンザイをして体全体で表現していました。



次に後半の『マツケンサンバ』が流れると演武用の扇子を持って自由にリズムに乗せて動かします。会場から自然と合いの手が入ると、そのエネルギーを感じて辻さんがしっかりと扇子を上下させては嬉しそうに笑ってました。北山さんもサビに合わせて扇子を揺らしながらルンルンと楽しく踊ってました。最後にみんなで「オーレ!」と

言って決めポーズを取ると会場から温かい拍手に包まれ大きな達成感を感じる事ができました。曲が終わると整列して肩や背中を擦り恒例の「体の邪気をジャッキーチェーン!」と決めセリフを言って演武が無事に終了しました。今年の太極拳も大成功に終わりみんなで記念写真を撮った後に別の参加者の方から「感動したよ、ありがとう」と声をかけてもらい、メンバーさんもニコニコと充実した表情を見せていました。これからも楽しく気持ちをひとつにして TEAM たびだちで頑張ります! 謝謝😊

(藤田祥吉)

たかとりやま
高取山キャンプ

【2025年9月13日(土)~14日(日) 場所:高取山ふれあい公園】

キャンプでは、アスレチックや山登り、キャンプファイヤー、夕食作りなどを行いました。それ以外にも虫探しや鬼ごっこ、枕投げなどそれぞれが楽しみを見つけ、たくさん遊び、活動した2日間になりました。たくさんエピソードはありますが、今回のキャンプで印象に残ったのは、ボランティアのA君(中1)でした。



A君は、4月、6月とキャンプにボランティアとして参加できるかどうかのトライアルにチャレンジしましたが、子どもを担当してもらうのは今回は難しいと判断し、そのことを伝えると「許可して!」と何度も言い、すぐに受け入れることが出来ませんでした。これまで中高生ボランティアに役割として裏方をお願いしたことはありませんでしたが、A君の2回のトライアルでやる気を感じていたことや、今のA君にとってはチャレンジする機会が必要ではないかと考え、後日裏方でのボランティア参加を提案しました。A君は「やるよ」と言ってくれ、どのようなことをするのか等伝えました。しかし、事前に行った準備会でのこと。小さい子が歩くルートで、歩けなくなった子がいた時に必要な背負子を背負って歩くことをお願いしましたが、「展望台のルートを歩く!」と言って、少しパニックになってしまいました。また、経験したことのない裏方のボランティア、しおりに書かれている役割を見て頭がいっぱいになり、1週間前に「キャンプ行きません」と言いました。気持ちが再度変わるかもしれないと思い、直前まで待つことにすると、前日に行く気になり、登山用の靴を履いて、お菓子を買って行ったそうです。

キャンプ当日の朝、集合場所には来たけれど「お手伝いしません」と宣言し、気持ちは揺れているようでした。いざキャンプが始まり、A君に「〇〇手伝って」と裏方の仕事の声をかけても、自分がやりたいことが優先し、気持ちの切り替えが出来ず、余裕のない態度が見られ、「今回はボランティアで来ているから頑張ろう」と伝える場面が何度もありました。自分たちもA君にどれだけ仕事を頼もうか迷いつつ1日目を終えました。そんなA君の気持ちが少しずつ変わってきました。夜中、B君(小1)が部屋を出るのに気づいたA君は一緒に部屋を出て見守ってくれていました。翌朝には、ボランティアの起床時刻に起きてきて「何か

お手伝いしましょうか」と自分から他のボランティアに声をかけてくれたようです。そんなことが言えるんだと後で聞いて感動しました。その日の山登りについては、背負子が必要な理由など再度伝えをお願いすると、背負子を背負い、「僕はレスキューだ!」とすぐに受け入れてくれました。途中の展望台との分岐では、展望台に行きたい気持ちも少し見えましたが、自分で気持ちを整理し、最後まで背負子を背負って歩いてくれました。葛藤しながらも投げ出さず、やり遂げることが出来たようでした。後日、キャンプに一緒に行った人に会い、「お手伝いっばいしたよ」と言っていたようで、今回の経験が A 君の自信に少しでもつながったのではないかな、そうであればいいなと感じました。そして、私たちは A 君を通じ、その子が置かれている状況や力に合わせた経験、力を発揮する機会が大切であることに改めて気づくことが出来ました。これからも形にとらわれず、子どもだけでなく、ボランティアさん、親御さん、職員もそれぞれが活躍できる場を作っていきたいなと思っています。

(本記事は 2025 年 10 月 31 日発行みらくるクラブ通信より転載しています)



追悼 松野社長 本当ありがとうございました



10月7日未明に、松野農園オーナーで松野製作所社長の松野直人さんが 82年の生涯を閉じられました。通夜式、告別式と参列させていただきました。ご遺影の顔が穏やかでとてもよい写真でした。棺のなかの社長は、たくさんの花で敷き詰められて御家族・御親族に見守ら

れながら言葉^{ことば}をかけられている姿^{すがた}をみて、こころがあたたかくなりました。松野社長の存在^{まつのしゃちょう そんざい}と理解^{りかい}なくして、松野農園^{まつののうえん}が開所^{かいしょ}できることはなかったです。

社長^{しゃちょう}とのいくつかの思い出^{おもいで}のなかで思い出^{おもいだ}されるのは、コロナ前^{まえ}に毎週^{まいしゅう}開催^{かいさい}していた「ランチ会^{かい}」のことで、常連参加者^{じょうれんさんかしゃ}として毎週^{まいしゅう}お越し^こになり、他の参加者^{たさんかしゃ}と会話^{かいわ}を楽し^{たの}まれたり、ときにはメニュー^{あじ}の味つけ^{いけん}にご意見^{いけん}をいただくこともありました。そうしながら、わたしたちの活動^{かつどう}を応援^{おうえん}してくれていた姿^{すがた}がうれしかったです。

また、毎日^{まいにち}のように農園^{のうえん}に訪^{おと}ずれて、常駐^{じょうちゅう}スタッフが淹^いれるコーヒー^のを飲^のみながらかす^{なに}何げない会話^{かいわ}を楽し^{たの}しみにされていました。在庫^{ざいこ}のコーヒー^きが切れかかっていることを知^しると自^いら持^{もち}参^まりて来てくださったことも数^{かず}え切れず^きありました。常駐^{じょうちゅう}スタッフが有給^{ゆうきゅう}休暇^{きゅうか}をとって休^{やす}んでいると『ちゃんと雇^{やと}ってもらってんのに、休^{やす}んでどうすんねん。』とお叱^{しか}り言葉^{ことば}の裏^{うら}には、コーヒ^のーを飲^のみながら楽し^{たの}しみにされている何げない毎日^{まいにち}の会話^{かいわ}が^なできない寂^{さび}しさのようなものがきつとあつたのだろうと想像^{そうぞう}します。それ以外^{いがい}にも仕事^{しごと}で海外^{かいがい}に視察^{しさつ}に行^いったときの話^{はなし}や自慢^{じまん}のお孫^{まご}さんの話^{はなし}、PTA会^{ピーティーエー}長のとき^{かいちょう}の苦勞^{くろう}話^{ばなし}など本^{ほん}当^{とう}にいろい^ろとお話^{はなし}を聞^きかせていただきました。厳^{きび}しさのなかにも愛^{あい}情^{じょう}の深^{ふか}さが言葉^{ことば}から伝^{つた}わってききました。

松野農園^{まつののうえん}の向^むかいにある駐^{ちゅう}車^{しゃ}場^{じょう}・駐^{ちゅう}輪^{りん}場^{じょう}を来訪^{らいほう}者^{しゃ}のためによく使^{つか}わせていただきました。以前^{いぜん}は屋根^{やね}がなかったため^{ため}に雨^{あめ}が降^ふると濡^ぬれてしまっていたのですが、そのうち^{うち}にカーポ^かーポ^ーー^とを設置^{せつち}されたのは、来訪^{らいほう}される方^{かた}のことを思^{おも}ってのことだ^{こと}と感謝^{かんしゃ}しています。イベント^{イベント}等でたこ焼^{たこやき}をつくったりすると翌^{よく}日^{じつ}に『わしんところにはなかったなあ。』と笑^え顔^{がお}で話^{はなし}されるお茶^{ちや}目^めなどこ^ころも人^{ひと}柄^{がら}を表^{あらわ}しているエピソード^{エピソード}です。

数^{かず}えきれないほどお世^せ話^わになり、陰^{かげ}となり日^ひ向^{なた}となって活^{かつ}動^{どう}を支^し援^{えん}していただきました。ご冥^{めい}福^{ふく}をお祈^{いの}ります。そして、これからも活^{かつ}動^{どう}を見^み守^{まも}っていただ^{いた}きたいと願^{ねが}います。本^{ほん}当^{とう}にありが^あら^らうご^ござ^ざい^いました。

※本記事^{ほんきじ}は生野^{いくの}“食^{しょく}と農^{のう}のプロジェクト”ニュース NO.130【2025年^{ねん}11月^{がつ}15日^{にち}発行^{はつこう}】より引用^{いんよう}、一部^{いちぶ}再^{さい}編^{へん}集^{しゅう}して掲^{けい}載^{ざい}しています。

童夢KANSAIに行きました!

メンバーさんがそれぞれヘルパーさんと出かけることはあっても、グループホームきららのメンバー全員で出かける機会がコロナ禍以降、めっきりなくなっていました。そこで、11月8日土曜日に長居公園で行われる童夢KANSAIに行くことにしました。

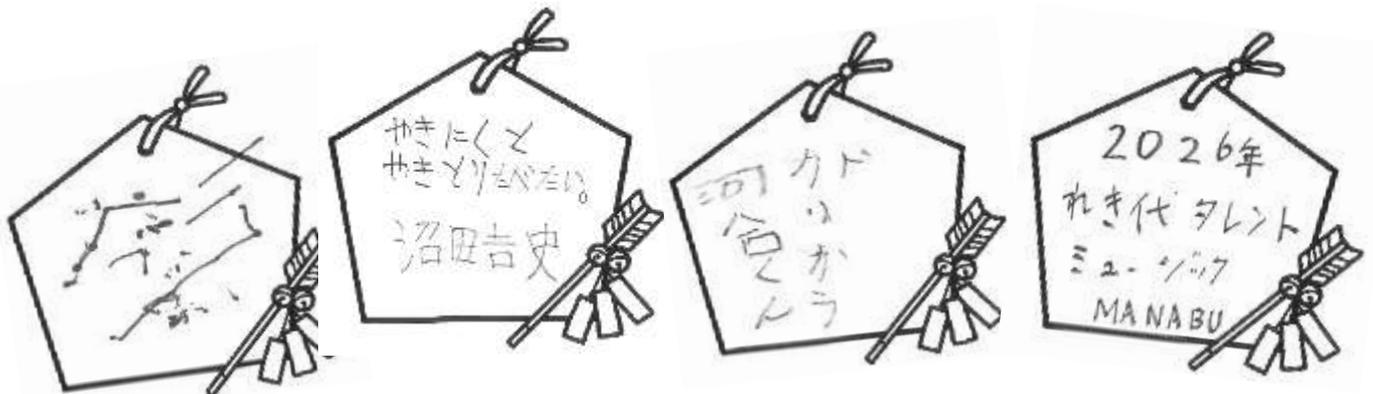
童夢KANSAIは被災地の障がい者を応援しようと始めた「ポジティブ生活文化交流祭」がコンセプトは残しつつ、昨年からイベント名・開催時期を変え、リニューアルされたものです。当日は、天候にも恵まれ鮮やかな花壇の前で朴さん、池田さん、山本さん、揃って写真が撮れました。会場では、大阪プロレスの興業もあり、大いににぎわっていました。9月にきららから引っ越した小道さんにも会い、山本さんにハイタッチする場面も。



出店ブースで、スクランブルエッグにチーズを乗せた「スクランブルたません」や唐揚げを買って食べました。唐揚げを食べ終わった朴さん…、何かを思いついた?急に立ち上がり歩きだされ、焦る私。(どした?どした?何か興味あるものがあったかな?)…。言葉でコミュニケーションをとることが難しい朴さん、とりあえずついて行くと、あるブースで立ち止まり、大きな鍋のふたをパカッと開けました。私はビックリ!鍋の中には、熱々でおいしそうなおでんがありました。朴さんが、おもむろにそばにあったお玉で取り出そうとされたところ…、「やけどするよ!危ないから~!!」と、ブースの方に止められてしまいました。朴さんとしては、鍋の中身を確認したくて、開けてみたら欲しいものが入っていたのだと思います。それが分かったので、ブースの方にお伝えし、おでんを購入しました。はっきりとした朴さんの意思を感じられた場面でした。

ヘルパーさんの確保がなんとかできて、きららメンバー全員での外出が実現できました☆
来年も、みなでおでかけしたいなあ~。

(山吹麻耶)



活動のあと

9/1 自主勉強会(ぴえん)	11/1~2 みらくる ゆーすと合宿
9/4 松野農園ランチ会	11/2 太極拳発表会(第10回みんなでゆ〜楽太極拳)
9/5 グループホームスタッフ全体会議	11/4 内部研修(人権研修③)
9/6 内部研修(てんかん研修) IKUNO サラダボウルプロジェクト(coco sasayama)	11/5 内部研修(人権研修④)
9/8 生野区相談支援事業所連絡会	11/6 内部研修(人権研修⑤)/松野農園ランチ会
9/9 都島区自立支援協議会(こども部会)	11/7 グループホームスタッフ全体会議/自立支援協議会運営委員会
9/10 執行委員会	生野区相談支援事業所連絡会役員会
9/11 消防設備等法定点検①	11/8 内部研修(人権研修⑥⑦)/童夢 KANSAI フェスティバル
9/12 消防設備等法定点検②/職員研修受入れ(イエス団)	11/9 生野区学童期こども支援連絡会(こどもがおみせやさん)
9/13~14 みらくるクラブ【キャンプ】(高取山ふれあい公園)	11/10~22 実習生受入(四天王寺大学)
9/16 作業所エッセンス会議/内部研修(虐待防止研修-前期①)	11/11 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会(内部)
9/17 内部研修(虐待防止研修-前期②)/生野区学童期こども支援連絡会/自立支援協議会/IKUNO サラダボウルプロジェクト歓迎食交流会	11/13 執行委員会/内部研修(人権研修⑧)/ハローワーク合同面接会
9/20 内部研修(虐待防止研修-前期③)/内部研修(発達障害勉強会)	11/14 生野未来学園 サツマイモ収穫(松野農園)
9/22 生野区相談支援事業所連絡会	11/16 みらくるクラブ【もちつき】(松野農園)
9/23~10/7 「idea の島々」絵画展 展示(奈良・ラスパ西大和)	11/17 『杓かなる』上映会&トークショー
9/24 執行委員会/内部研修(虐待防止研修-前期留学生)	11/19 自立支援協議会
9/25 内部研修(虐待防止研修-前期④⑤)/安全委員会/生野区 NPO 連絡会	11/20 作業所エッセンス会議
9/26 ビロン(松野農園)/地域共生ケア生野推進委員会	11/22 内部研修(支援についての話)/『いきいき復興大感謝祭』(能登)
シン・生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジェクトをすすめる会定例会	11/26 研修委員会
9/29 障大連事業所ネットワーク第1グループ会議	11/27 執行委員会/生野区 NPO 連絡会 まちあるき
9/29~10/31 実習生受入(関西大学)	シン・生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジェクトをすすめる会定例会
9/30 どんどんプロジェクト会議	11/28 ビロン(松野農園)/地域共生ケア生野推進委員会
10/2 松野農園ランチ会	11/29 内部研修(発達障害勉強会)
10/3 グループホームスタッフ全体会議	12/1 障大連事業所ネットワーク第1グループ会議
10/4 内部研修(発達障害勉強会)Yosuga 企画「声を寄せ合い、アクションを起こそう!」協賛	12/2 理事会
10/6 グループホームとんぼまる消防立入検査	12/4 地域連携推進会議/松野農園ランチ会
10/7 「idea の島々」絵画展(アーティストトーク)	12/5 グループホームスタッフ全体会議/生野区相談支援事業所連絡会役員会/バイローカル南西境界スタッフミーティング
10/8 グループホーム部会(ハラスメント研修)	12/6 IKUNO サラダボウルプロジェクトミーティング
10/11 みらくる学習会(戦争体験を聴く会)/内部研修(虐待防止研修-前期⑥)	居場所ネットワーク大阪 見学・学習会
10/15 生野区学童期こども支援連絡会役員会	12/10 グループホーム部会世話人会
10/16 執行委員会	12/11 執行委員会
10/18 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座①	12/13 内部研修(虐待防止研修-後期①)
10/19 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座②	12/14 大阪障害者自立セミナー2025
10/22 出発通信発送/内部研修(BCP 事業継続計画①)	12/15 大阪市オールラウンド交渉①
10/23 内部研修(BCP 事業継続計画②)/生野区 NPO 連絡会生野区相談支援事業所連絡会	12/16 子どもゆうゆう広場みらくるちっぷ消防立入検査
10/24 内部研修(BCP 事業継続計画③)/ビロン(松野農園)地域共生ケア生野推進委員会役員会	内部研修(虐待防止研修-後期②③)/大阪市オールラウンド交渉②
10/25 知的障がい者(児)ガイドヘルパー養成講座③	12/17 内部研修(虐待防止研修-後期④)
10/27 酒見さんを偲ぶ会/不登校・ひきこもり支援連絡会	地域共生ケア生野推進委員会「ハラスメント」研修
10/28 作業所エッセンス会議/内部研修(BCP 事業継続計画④)	12/18 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会(内部)
10/29 内部研修(人権研修①)	12/19 作業所エッセンス会議
10/30 執行委員会	シン・生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジェクトをすすめる会定例会
10/31 内部研修(人権研修②)	12/20 内部研修(発達障害勉強会)
シン・生野区の空地・空家を利用した食と農のプロジェクトをすすめる会定例会	12/22 内部研修(虐待防止研修-後期⑤)障大連事業所ネットワーク第1グループ会議
	12/23 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会(内部)
	12/24 執行委員会
	12/25 生野区 NPO 連絡会
	12/26 門松づくり/ビロン(松野農園)/地域共生ケア生野推進委員会役員会

一九八四年八月二十日 第三種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行
 発行人 関西障害者定期刊行物会 大阪市天王寺区真田山町二二二 東興ビル4階 頒価百円

編集後記

12月におこなわれたフィギュアスケートの国内最終戦。有終の美を飾った選手は今シーズン限り、25歳で引退するとのこと。1位なのに引退って…、凡人には理解しがたい。ウィンタースポーツが好きな私は、冬季オリンピックが楽しみです。(石井香里)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会
 〒544-0011 大阪市生野区田島1-10-30
 たびだち共働作業所内
 TEL 06-6758-6641 FAX 06-6758-6749
 郵便振替 00910-9-306080
 (特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
 ホームページ <https://www.tabidati.jp/> 780部